



人権保育から保護者支援を考える

もりもと く に こ
森本 宮仁子 さん (大阪聖和保育園 事務局長)



人権保育専門講座5では、大阪聖和保育園 事務局長(前園長)の森本 宮仁子さんに、「人権保育から保護者支援を考える」と題して、ご講演いただきました。

保育現場での豊富な実践をもとに、子どもの人権を大切にしたい保育、保護者の思いを大切にしたい保護者支援などについてワークショップを交えながらお話しいただきました。

●「人権保育とは」…自分の育ちたい方向へ育てていく権利を保障する保育

子どもを『種』、おとなを『土』として考えてみると、同じ種は2つとありません。種は土のなかで守られながら大きくなっていき、まず根っこが伸びていきます。根っこは自分の行きたい所へどんどん伸びていき、根っこを張った種は、土から芽を出します。根っこがどれだけ大きく伸びるかを保障するのが、保育・乳幼児教育です。保育・教育にかかわる私たちは、子どもを大切に守る『土』の役割を担っているのではないのでしょうか。特に就学前は、目に見えないところ(土のなか)を育てていく大切な時期であると言えます。人権保育とは、「誰もが生まれながらにもっている『自分』を『自分』として、自分の育ちたい方向へ育てていく権利を保障する保育」です。子どもたちは、それぞれ持ち味があります。「何ができるようになった」、「言葉が多くなった」など目に見える育ちのみにとらわれず、目に見えない子どもの育ちを大切にしていきたいでしょう。

●「保護者支援」を考える(具体的な事例を通して)

「保護者から自分の子どもについての相談を受ける」というワークショップをおこないました。保護者からの具体的な相談内容を確認し、「私なら保護者にどう返すか」について交流をしました。保育士が陥りやすい5つのパターン(1.安心させようと安易に返す、2.その場しのぎで気休めの言葉を返す、3.気にしている保護者をさらに追い込んでしまう言葉を返す、4.保護者が思ってもいない方向から言葉を返す、5.そう思っているのは間違いだと返す)について確認しながら、考えを深めていきました。保育士自身の価値観でものを見ていないかなど、まずは自分の返し方の癖をわかっておくことが大切です。

また、保護者支援を考えたとき、「傾聴」という言葉がキーワードとなります。「傾聴」とは、問いたただすことではなく、相手をかけがえのない存在として尊重し、分からないことは問い返ししながら「この人が何を伝えようとしているのか」を分かろうと、積極的に聴くことです。保育士・幼稚園教諭は、保護者がどうしたいかを聴いて、保護者の側が、自分で解決策をだして行動していけるよう支援をおこなうことが大切です。



【参加者アンケートより】

- 人権保育から保護者支援を考えるということで、保育とは人間形成の基礎を培う営みであり、人間の根っこをどれだけ育てていくかが大切なのだ学びました。
- 保護者との信頼関係を築いて、まずはこの人なら話しても良いかもしれないと思ってもらえるようになりたいと思いました。何気ない保護者とのやりとりのなかの気もちを聞いていきたいと思いました。
- コーチングについては知っていましたが、ワークを通して具体的な状況をイメージすることができました。自分の価値観でものを見ていないか、気をつけていきたいと思いました。